

## 令和4年度 第1回 佐久市立近代美術館協議会 議事録

日 時 令和4年7月28日（木）午後3時30分～午後5時

場 所 佐久市立近代美術館 視聴覚室

出席者 委員8名（欠席2名）、事務局7名

### 1 開会（事務長）

### 2 あいさつ（教育長）

### 3 会議事項

進行：鈴木会長

#### （1）令和3年度事業報告について

事務局：（1）説明

教育長：説明資料には、会議を充実させて皆さんに意見を出してもらう工夫が足りない。行政主体の会議にはこのような資料が多いが、今の説明では委員が何を意見したら良いかわからないだろう。今度の会議では各事業に対する自己評価を資料に入れておいてほしい。

事務局：教育長の話を受けて自己評価代わりに話をする。令和2年度から現職に着任したためコロナ禍以前の状況が分からないものの、3ページ目の観覧者数（武論尊展）の数字を見ると高校生や小中学生が少ない。データはないが令和2年度も少なかったのではないかと推測する。学校の先生方には令和3年度に夏の研修で来館するよう声をかけた。この問題の原因と解決策について意見が欲しい。

委 員：武論尊展以外にも同様の傾向はあると思うか。

事務局：全体に似た傾向がある。児童生徒美術展では親子連れが来館するが、若い人が比較的多く来館する会期が、臨書展及び児童生徒美術展に偏っている。

委 員：先日、中央公民館事業「創錬の森 市民大学・大学院」で高齢者約90

人が来館して鑑賞した。たくさんの作品を見せてもらって非常に感動していた。自分の孫を連れてきたいという人もいた。今後も市民大学と美術館のタイアップを行いたい。

小中学生の来館者数の多い臨書展と児童生徒美術展では、自分の作品が展示されているから親子で見に来る。美術館の展示作品などをよそよそしくなく、自分と近いものとして接することができるのが大事。そのために、とにかく一度来てもらうようにしたい。

公民館では夏休みを中心に「子ども公民館」を実施している。図工・美術の年間の時数は35時間。課題のポスターや校内作品展用の作品制作で時間を費やしてしまい、鑑賞の時間がとれない。それを補うような形で、公民館でも美術館と協力して、作品の前で自由に語るような機会を設けたい。

委員：特に小学生にとって、美術に関することは崇高な世界に見える。とはいえ美術館に一回足を踏み入れてみれば、少なくとも好きな子たちにはわかるし、保護者の方も良いと思ってくれるはずだ。

小学生は自分自身が活動して、夢中になれることをやってみたいという思いが強いので、ワークショップ的に美術に触れさせるのが効果的だと思う。例えば手形が美術作品になるとか。遊びや体験を通して美術と関われば、あの時楽しかったよ、と周りにも語るようになる。

小学校も中学校も書写の授業はやっても、佐久市で力を入れている「臨書」まではできない。臨書も子どもたちに体験してほしい。すそ野が広がると思う。

委員：学校のカリキュラムまでは分からないが、海外の美術館を見ると子どもたちが車座になってワークショップをやったり話をしたりしている。走り回って騒ぐこともあるくらい。それらが頻繁に行われているのは、美術館としていい光景だと思う。そういうことも含めて小さな頃から美術館に足を運んでいると、どういうものがあるのか、肌で感じるができるし知識も増えていく。日本ではそういう場面をあまり見かけない。大きな違いがあると思う。

委員:美術にふれる機会を提供するだけでなく、佐久に美術館があるということを子どもたちに教えていかなければならない。このままでは、あってもなくても良いと言われるときが来ると思う。

油井一二さんのことやコレクションのことを伝えてほしい。市民がすぐ芸術に触れられる素晴らしい環境が整っているのに、多くの大人も子どもも知らない。今はインターネットなどを通じて、子どもたちは見ようと思えばなんでも見られる。そんな時代だからこそ「なんでここにこれがあるの？」の疑問に答えるのが重要。美術館に展示されている作品は、世の中に認められて美術館に収蔵されたから鑑賞できる、というようなことを教えていくべき。

事務局:小中学校の教育活動の一環としての団体観覧には、無料とする規定がある。昨年それを利用して美術館を訪れたのは1～2校。館としては団体で来館してワイワイやってもらえる方が嬉しい。学校単位で美術館に来られない理由はなんだろうか。

改善のための方策を立てようとする、それは学校教育の方でやることですよ、と言われてたりすることもある。実際のところ学校現場の事情はどうか。こちらはいつでも受け入れる体制がある。何が理由で来てもらえないのか。

委員:近年に限って言えばコロナ禍が挙げられる。そのほかにも学力問題への対処など、学校現場にもやらなければならないことが山積している、図工・美術分野への目配りができない。

収蔵品の中に、子どもたちにも興味が沸くものがあるだろうか。武論尊展を開催するならば、小中学生に人気の漫画ともタイアップするなどのアイデアが必要だと思う。

美術館へ行ったとき、教員は「静かに見なさい」と言わざるをえない。公共の場でのマナーを学ばせる必要もあるので、海外のようにはいかない。子どもデーを設けるのはどうか。例えば、小学生はお金に興味があるから「この作品はいくら？」などの説明があると嬉しい。見学コース

を作ってもらおうと「楽しかった！」と思える。

事務局：「子どもデー」は、学校単位での来館を想定しているのか。

委員：2～3校が同じ日に来館するイメージ。学校ごとに児童生徒の毛色が異なるので、複数校が同じ空間にいただけでも子どもたちは刺激を受ける。

事務局：「子どもデー」を開催するならば、どれくらい前に日程が判明していれば調整可能なのか。

委員：1年前に分かっていればできる。周知と調整のために図工・美術の先生と会議を開いてもらうのがいいかもしれない。

委員：海外では美術館が美術教育のトップにいて、そこへ学校と同じように学びに行く感覚がある。日本では美術館は美術館で独立しているように思う。

先日、長野県立美術館の松本館長の講演会を聞いていて、研究して展覧会を企画した人の思いを聞ける機会があったり、市民も研究をする機会があったりすると良いと思った。話を聞くと展覧会も見たくなる。

学校単位での来館が少ないのには、引率の先生方が子どもたちに質問されても答えられず困るという理由もあるのではないか。わかる工夫を美術館で用意しておいた方がいい。学芸員が説明しても良い。

委員：「子どもデー」があるといい。図工・美術の時数は少ないものの、総合的な学習の時間や社会科や生活科の「地域めぐり」がある。「地域めぐり」では小学校3年生がバスで市内をめぐり。そのコースにぜひ美術館を入れてほしいと学校に押すことはできる。そういうときに楽しく鑑賞できるように、美術館には準備をしてほしい。図工美術の先生に呼び掛けて、教育会の夏季研修で1講座もつとそのため道筋ができる。校長会に働きかけるのも具体的な案として挙げられる。まずは興味を持ってくれた先生の学校に来てもらえばいいと思う。

教育長：これまで意見を出していただいたような「期待される美術館像」は配布資料に出てこない。事務局にはなんのために開く会か定めて会議を進め

てほしい。

現在「社会教育」「学校教育」という言葉を使わないように、教育振興基本計画を根本的に変えようと議論している。子ども目線から見ると「社会教育」「学校教育」の区別は関係ない。来年度には冊子になって皆様の手元に渡る。社会教育施設の目指す方向などについては、教育委員会の協議会で各館長に語ってもらう。それを受けて具体的に校長会で基本計画を組みなおそうとしている。上から下へ押し付ける教育ではなく、下から上へ自ら学ぶ教育への転換を目指す。この場でもうんと議論してほしい。事務局も学校教育のことがわからなければどんどん質問してほしい。

委員：高校生の来館が少ない理由のひとつは、美術が選択教科であること。音楽、美術、書道の3科目から選択する学校だと、学校で美術と関わる生徒は全体の3分の1。美術から離れてしまう。

部活動でも美術部員が減っていて、アニメや漫画、ゲームへの興味関心が高まっている。美術に興味向きにくい。小さな子ども向けだけでなく、中高生向けのように対象年齢を上げた企画もやってもらえると思う。高校生は恋愛や青春に興味がある。例えば、作家が若いころに何を考えていたか、などは高校生の関心事にも引っかかるのではないかと。

委員：夏休みというと、子ども向けの企画展を開催していた印象がある。以前にやっていたクイズの企画など、そういう企画も夏休みシーズンにこれからもやっていくと良いと思う。

委員：令和4年度の事業がスタートしているが、令和3年度の反省を踏まえて改善したことや新たに実施していることなどはあるか。

事務局：無料化試行期間が終了し、この7月から観覧料が有料になった。前回の会議の中でも説明したが、コロナ禍で正確な観覧者数が比較できなかったものの、無料化を決して多くの人が求めている状況が見えた。これまでの議論の中にあつたとおり、これからの将来を担っていく人に

も知ってもらいたいという思いがあるので、今年度の企画展では高校生以下または18歳未満の観覧料は無料とした。

この2年、コロナ禍で様々なイベントが中止になり、まず美術館を知ってもらう機会がないような状態だった。今年度はそのあたりを感染症に気を付けて実施するようにしたい。

事務局：協議会などでの要望を受けて実施したこととしては、対話型鑑賞イベント、Twitterでの発信が挙げられる。対話型鑑賞は、長野県立美術館との共催展を開催するにあたり、県立美術館の教育普及のノウハウを活かしたイベントを実施したいとして依頼した。手ごたえがあり方法も掴めたので、当館のスタッフがファシリテーターとなって定期的を開催したい。

Twitterは佐久市公式アカウントのログイン権限を付与してもらって投稿している。思わぬところで反響がある。効果的な発信に努めたい。

## (2) 令和5年度以降の事業に関する方針(案)について

事務局：(2)説明。

委員：楽しい美術館体験がいくつか記憶にある。屏風のような大きな絵の前で、子どもたちが見つけたものを語るというイベントに参加したことがある。これは子どもたちが細かいところまでよく見るので、色や形への気づきが広がった。

夜の美術館にも行ったことがある。このときは高校の美術部が制作した作品を、セロファンを使うなど照明を工夫しながら見た。句会をしたこともある。展覧会のテーマが月だった。美術館の作品をひとつおき鑑賞した頃に月があがってくるので、俳句を作る。

部屋の活用の仕方や見せ方についても、この展覧会ではこういうふうにしていくと工夫すると、集客の悩みが解消されていくと思う。

教育長：資料でいえば「方針」の次は「方法」にすべき。企画展は「方法」のひとつにすぎない。他の方法に先ほど挙げた「対話型鑑賞」や「子どもデー」などがある。教育の目的を達成するための手段は相当変えられる。

方針については意見の言いようがない。

この美術館の特殊性に縛られている部分があるかもしれないが、新しい美術館になることも視野に入れて、自由に意見してもらいたい。

委員：私たちは、観覧者の絶対数が増えることも含め、最終的に美術館にこうなってほしいということを経験に即して話をしている。最近進歩があったと感じているのは、佐久市立近代美術館の告知を以前よりも目にするようになってきたこと。努力しているのを感じる。

週末に金沢21世紀美術館へ行ってみると、子どもたちワイワイしている。同館は無料ゾーンが広い。有名なプールの作品（レアンドロ・エルリッヒ《スイミング・プール》）も地上部分は無料だったと思う。金沢市は作品の「入れ物」にこだわっている。

この美術館は辛気臭い。佐久幼稚園の子どもたちや保護者がよく目の前を通るが、玄関口に立ち寄る姿すら見たことがない。アプローチでわかるように、せめて保護者の皆さんが子ども連れで気軽に寄れるゾーンを作る、ショップを充実させるなど、雰囲気作りをしていくのがすごく大事。美術館を訪ねるのは、建物の中に入っていくのも楽しいことだと認識してほしい。

委員：以前の協議会でも話をしたことのある話題が多い。小学校の社会科見学で美術館を組み入れてもらったかどうかと提案したら、学校の先生の方から、それぞれの先生の判断だからどうしろこうしろとは言えないと言われた。今日のお話を聞いたら少し期待が持てそうで、よかった。

昔は「佐久平の美術展」の結果を広報に掲載してもらっていた。会期が始まる前に広報で知っている人の名前を確認できるので、受賞者入選者の知り合いを呼び込む効果があった。復活させてほしいと協議会で発言したら、当時の教育長に「変えるつもりはありません」と言われてしまった。そういうことを言われてしまうと、何を言っても無駄なんだと思わずにいられない。これからは話すことに対して期待が持てる。

教育長：そのような感想を色々なところで聞く。私は職員に対して「聞く方の立

場になってください」というのを一番言っている。聞く方の立場を考えない会議は、報告しました、無事に進行できましたというアリバイ作りにすぎない。このような会議では、皆さんの発言で施設運営の在り方が変わったと思えるほうがいい。

委員：話題にあがった金沢21世紀美術館と同じように、現代美術や現代アートの展覧会を開催してほしい。今は近代絵画、近代彫刻の展示ばかり。収蔵品のメインがそれらなので仕方ない面もあるが、現代アートは集客もしやすく、子どもたちも見て楽しめる内容が多い。展覧会でもイベントでも良いので、そういう企画があったら客層が変わるのではないか。

委員：金沢21世紀美術館はもともと集客力のある美術館なので、子どもたちが無料であることを周知できたのだと思う。近代美術館も無料化していたが、それを知っている人はいなかった。目の前を通る人たちですら無料であることを知らない。以前から近代美術館の広報は、どこに注力しているのか見えにくい。現代アートの展覧会であっても創意工夫がないと人が来ない。ミッフィー展のように「ミッフィー」のネームバリューが人目を引くような展覧会もあったが、大事なそれはそれを美術館がどう利用するか。いい方向に向かっていく施策を考えてほしい。

委員：ちょうど夏休みの期間に、美術館の外観が工事現場のようになっているのが残念。オープンしているのかどうか分からず入館を躊躇してしまう。工事の安全確保も大事だが、夏休みなのもったいないと感じた。駒場公園にはプールもあり、環境的にはよいところなので、夏休みは公園内の施設で協力して何か企画するとか、発信するならもっと伝えなければならぬ。

委員：高校では「探求学習」が本格的に始まっている。生徒たちは自分で課題を見つけて活動する。学校によって個人かグループか、活動形態は異なる。地域の企業やグループと協働することを教員側も望んでいる（探している）ので、各校にアピールをしてほしい。高校生に学習の一環で、



美術館に多くの人に来館してもらう方法を考えてもらう。

教育長：具体的にはどうやって働きかければよいか。

委員：文書や電話で探求学習の担当の先生に話をするのがいい。探求担当への添え状をつけて、学校長あての文書を出すのもいい。今もさくさぼ（佐久市市民活動サポートセンター）との協力はやっている。美術館も受け入れてもらえると思う。

事務局：週にどれくらいの時数か。また、クラス全体での活動となるのか。

委員：週1、年間30時間。最終的にはプレゼンをする。クラス内で医療や農業といった大まかなカテゴリでグループを分けて、生徒たちで具体的な課題を決めていく。1グループ4～5名で、1クラス8グループほど。

教育長：課題を出すヒントを美術館が出すようにすれば良い。

委員：さくさぼでは「佐久平地域まるごとキャンパス」を実施している。市民活動団体へ子どもたちが赴く。あくまで対象が市民活動なので、友の会などをお願いしてやっていくのはどうか。館長の提示した課題を、子どもたちと一緒に解決していくというのも良いかもしれない。関わる人が増えると、活動の軸となる施設や団体も盛り上がっていく。通常のアプローチと違うところも視野に入れていくと盛り上がりやすい。

これからの企画展に「②佐久地域の作家」とあるが、佐久地域の美術の先生たちの作品の展覧会を開催して、身近な人の作品を見る機会を作るのはおもしろそうだと思う。

委員：毎年東信地域の教員が開催している「アデュカル展」が、会場を検討している。

委員：小中学校では、文化祭で大きなステージバックを作る。みんな自分の学校のものしか見たことがない。ステージバックをまとめてここに展示するのはどうか。

委員：小中学校間の横のつながりはないのだろうか。各校でいいことをやっても、自分の学校のこと以外を知る機会がない。佐久平浅間小学校の「おしごとゼミ」では子どもたちに地域の仕事を教えている。同様の試みで、佐久商工会議所主催の「まちゼミ」もいろんな小学校でやっている。

学校同士の横のつながりがあるようでないのが残念。美術部がなにをやっているのかわからない。例えば、臼田中学校の美術部はパフォーマンスをやる。それを美術館主導で生徒を集めて開催するのも良い。

委員：佐久美術会では、信州美術会が提案した次世代育成事業を行っている。東信地域の高校生に案内して、着衣デッサン会を実施した。2年ぶりの開催で、30名近くの高校生が参加した。デッサンを1日やるときに、1時間は美術館を訪問して、ざっくばらんにおしゃべり感覚で鑑賞を楽しんだりもできる。これなら地域の美術団体も協力できそうである。

### (3) その他

- ア 報告事項
- イ 連絡事項

## 4 閉会